

# 大学生の包括的健康教育プログラム構築と効果測定調査

97%の学生が、大学生への「包括的健康教育」が必要であると回答

日本医療政策機構では、国際連合教育科学文化機関（UNESCO: United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization）が発行し国際的かつ包括的性教育の標準となっている「国際セクシュアリティ教育ガイダンス（International Technical Guidance on Sexuality Education）\*」等を参考に分野を超えた専門家の意見を収集した上で、大学生向けの包括的健康教育を実践するためのプログラムを構築しました。それを元に、大学学部生約230人（3大学）を対象に教育介入を行い、介入前後の効果を測定すべく、オンラインアンケートによる定量的な調査を実施しました。

本プロジェクトでは、包括的健康教育を、性に関する健康教育に限定するのではなく、自分と周囲の人がそれぞれ持つ価値観や生き方を尊重し、様々な人生の選択肢を知った上で、将来のライフプランを検討、実現していくために今必要な性や身体に関することを包括的に学習することができる教育と定義しています。

今回提供した「包括的健康教育」プログラム内容：

■ リプロダクティブヘルス/ライツ（LGBTQ/性と生殖に関する権利）

■ 各論Ⅰ：性に関すること

- ✓ 性感染症
- ✓ 性暴力、性的同意
- ✓ 思いがけない妊娠、緊急避妊薬（アフターピル）
- ✓ 女性ホルモン、月経

■ 各論Ⅱ：ライフプランに関すること

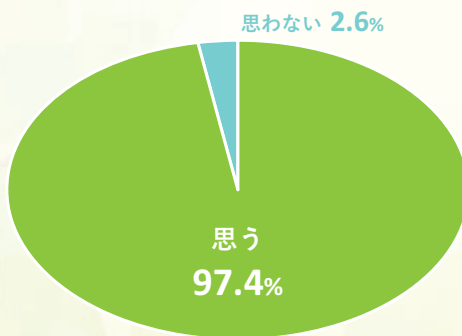
- ✓ 出産
- ✓ 産後、育児
- ✓ ライフプラン

## 【教育機会に対する大学生のニーズ】

講義後

本講義のような「包括的健康教育」の講義は大学生にとって必要だと思うか

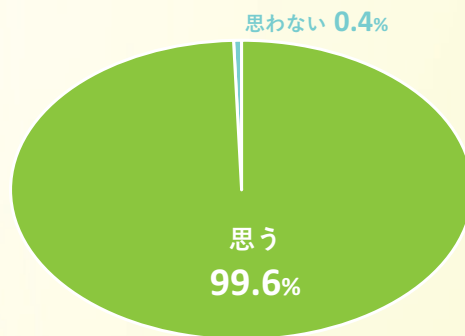
N=228



講義後

本講義のような「包括的健康教育」の講義は将来、自分や周りの人が困ったときに役に立つと思うか

N=228



本調査結果を受けた提言：3つの視点

**視点1** 幼少期からの包括的健康教育の導入・充実と大学生（専門学校、短期大学生等、同世代の若者を含む）への包括的健康教育の機会創出の必要性

- 幼少期からの包括的健康教育の導入および充実化に向けた取り組みの促進
- 大学等の教育機関における学生を対象とした「包括的健康教育」受講機会の創出

**視点2** 包括的健康教育のコンテンツ、および提供者・提供方法を工夫する必要性

- 国際基準のガイドラインに基づいた教育プログラムの活用
- 包括的健康教育を実施できる外部人材の育成と分野間の連携促進

**視点3** 学生を相談機関や医療機関へ繋ぐ仕組み作りの必要性

- 学生が訪れやすい相談機関の設置
- 学生を適切な相談窓口や支援・相談者、医療機関につなげる仕組みづくり

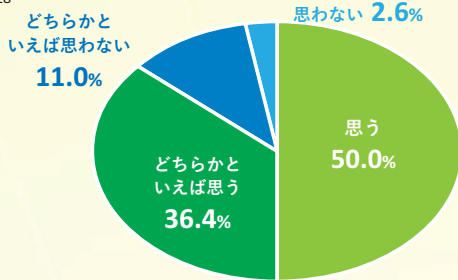
\* 国際連合教育科学文化機関「International technical guidance on sexuality education: an evidence-informed approach」

# 調査結果のポイント

## ✓ 性感染症

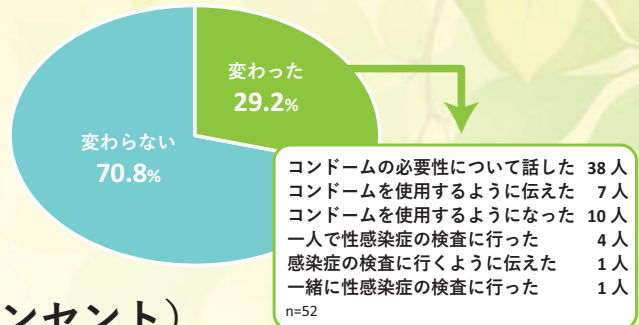
**講義後** 助産師による「包括的健康教育」の講義内容を踏まえ振り返ってみると、これまでの自分自身の性感染症に対する正しい知識は不足していたと思うか

N=228



**3か月後** 3か月前に受講した助産師による「包括的健康教育」の講義をきっかけに、性感染症を予防するための行動が変わったか

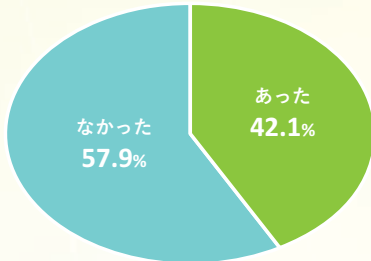
N=178



## ✓ 性暴力・性的同意（セクシュアルコンセント）

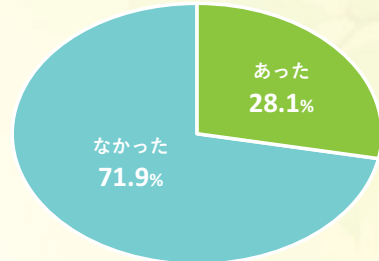
**講義後** 助産師による「包括的健康教育」の講義内容を踏まえ振り返ってみると、これまで自分や身の回りに「性暴力」や「性的同意が行われていない場面」があったと思うか

N=228



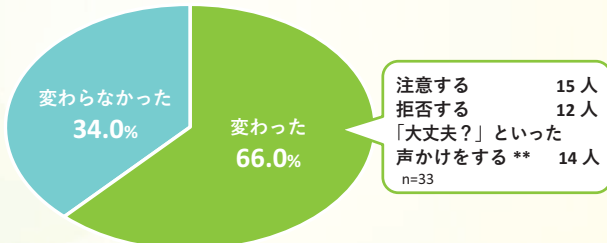
**3か月後** 3か月前の講義以降に自分や身の回りで「性暴力」や「性的同意が行われていない場面」があったか

n=178



**3か月後** 3か月前に受講した助産師による「包括的健康教育」の講義をきっかけに、「性暴力」や「性的同意が行われていない場面」におけるあなたの行動は変化したか

n=50\*

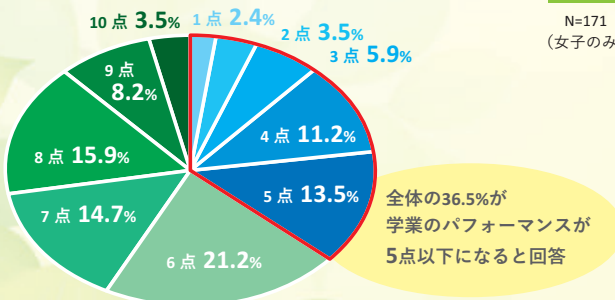


\* 全体から「そのような場面はなかった」と回答した128人は除外した  
 \*\* 友達など自分以外が被害に遭っている場合

## ✓ 月経時のパフォーマンス、婦人科・産婦人科の受診

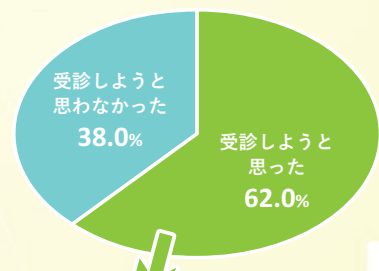
**講義前** 月経や月経前症候群に伴う不快な症状によって、学業のパフォーマンス\*は普段と比べてどれくらい変化するか

N=171  
(女子のみ)



**講義後** 助産師による「包括的健康教育」の講義をきっかけに、婦人科・産婦人科を受診しようと思ったか

N=171  
(女子のみ)



月経や月経前症候群に伴う不快がある時のパフォーマンスを0～10点で評価（元気な状態の学業の出来を10点とする）  
 \* 授業における集中力、テストや課題への取り組みなど

3か月後の調査で、実際に受診した割合は5.7%

調査結果の全文は、当機構のウェブサイト (<https://www.hgpi.org/>) よりご覧いただけます。 ▶「HGPI女性の健康」で検索

